



BEA WebLogic Server™

WebLogic Tuxedo Connector クイック スタート

リリース 7.0
マニュアルの日付：2002 年 6 月
改訂：2002 年 6 月 28 日

著作権

Copyright © 2002, BEA Systems, Inc. All Rights Reserved.

限定的権利条項

本ソフトウェアおよびマニュアルは、BEA Systems, Inc. 又は日本ビー・イー・エー・システムズ株式会社（以下、「BEA」といいます）の使用許諾契約に基づいて提供され、その内容に同意する場合にのみ使用することができ、同契約の条項通りにのみ使用またはコピーすることができます。同契約で明示的に許可されている以外の方法で同ソフトウェアをコピーすることは法律に違反します。このマニュアルの一部または全部を、BEA からの書面による事前の同意なしに、複写、複製、翻訳、あるいはいかなる電子媒体または機械可読形式への変換も行うことはできません。

米国政府による使用、複製もしくは開示は、BEA の使用許諾契約、および FAR 52.227-19 の「Commercial Computer Software-Restricted Rights」条項のサブパラグラフ (c)(1)、DFARS 252.227-7013 の「Rights in Technical Data and Computer Software」条項のサブパラグラフ (c)(1)(ii)、NASA FAR 補遺 16-52.227-86 の「Commercial Computer Software--Licensing」条項のサブパラグラフ (d)、もしくはそれらと同等の条項で定める制限の対象となります。

このマニュアルに記載されている内容は予告なく変更されることがあり、また BEA による責務を意味するものではありません。本ソフトウェアおよびマニュアルは「現状のまま」提供され、商品性や特定用途への適合性を始めとする（ただし、これらには限定されない）いかなる種類の保証も与えません。さらに、BEA は、正当性、正確さ、信頼性などについて、本ソフトウェアまたはマニュアルの使用もしくは使用結果に関していかなる確約、保証、あるいは表明も行いません。

商標または登録商標

BEA、Jolt、Tuxedo、および WebLogic は BEA Systems, Inc. の登録商標です。BEA Builder、BEA Campaign Manager for WebLogic、BEA eLink、BEA Manager、BEA WebLogic Commerce Server、BEA WebLogic Enterprise、BEA WebLogic Enterprise Platform、BEA WebLogic Express、BEA WebLogic Integration、BEA WebLogic Personalization Server、BEA WebLogic Platform、BEA WebLogic Portal、BEA WebLogic Server、BEA WebLogic Workshop、および How Business Becomes E-Business は、BEA Systems, Inc. の商標です。

その他の商標はすべて、関係各社がその権利を有します。

BEA WebLogic Tuxedo Connector クイック スタート

パート 番号	マニュアルの日付	ソフトウェアのバージョン
なし	2002 年 6 月 28 日	BEA WebLogic Server バージョン 7.0

目次

1. WebLogic Tuxedo Connector クイック スタート

WebLogic Tuxedo Connector のコンフィグレーション	1-1
TraceLevel の設定	1-2
simpapp サンプルのビルド	1-3
WTCServer MBean の作成	1-3
ローカル Tuxedo ドメインの作成	1-4
リモート Tuxedo ドメインの作成	1-4
エクスポートされたサービスの作成	1-5
インポートされたサービスの作成	1-5
WTCServer MBean のデプロイメント	1-6
WebLogic Server ユーザとしての TDOM1 の登録	1-6
Tuxedo のコンフィグレーション	1-7
サンプルの実行	1-8
WebLogic Server から Tuxedo への相互運用性	1-9
Tuxedo から WebLogic Server への相互運用性	1-9



1 WebLogic Tuxedo Connector クイックスタート

注意： WebLogic Server リリース 7.0 で WebLogic Tuxedo Connector をコンフィグレーションする方法の詳細については、『WebLogic Tuxedo Connector 管理ガイド』を参照してください。

以下の各節では、WebLogic Server リリース 7.0 と Tuxedo リリース 6.5 およびそれ以降が相互運用できるように WebLogic Tuxedo Connector をコンフィグレーションする方法について説明します。

- WebLogic Tuxedo Connector のコンフィグレーション
- Tuxedo のコンフィグレーション
- サンプルの実行

WebLogic Tuxedo Connector のコンフィグレーション

注意： この節では、Windows プラットフォームでの WebLogic Tuxedo Connector のコンフィグレーション方法について手短かに説明します。UNIX ユーザの場合には、「\」を「/」に、あるいは「.cmd」を「.sh」に置き換えるなど、読み替えを適切に行えば、説明はそのまま当てはまります。

ここで取り上げる例は、Tuxedo simpapp アプリケーションを Tuxedo ドメインにまたがって動作するように拡張したものです。これによって、TOUPPER サービスのクライアントは Tuxedo と WebLogic Server examplesServer のどちらでも動作できるようになります。このサンプルでは、以下のサービスが提供されません。

- **TOUPPER:** 文字列を大文字に変換する Tuxedo サービス。WebLogic Server クライアントは TOUPPER EJB を呼び出し、Tuxedo TOUPPER サービスに接続します。
- **Tolower:** WebLogic Server 内の EJB によって実装されるサービス。Tolower サービスのクライアントは Tuxedo 上で動作します。

以下の各節では、Administration Console を使って WebLogic Tuxedo Connector をコンフィグレーションする方法について説明します。

- TraceLevel の設定
- simpapp サンプルのビルド
- WTCServer MBean の作成
- ローカル Tuxedo ドメインの作成
- リモート Tuxedo ドメインの作成
- エクスポートされたサービスの作成
- インポートされたサービスの作成
- WTCServer MBean のデプロイメント
- WebLogic Server ユーザとしての TDOM1 の登録

TraceLevel の設定

注意: TraceLevel の詳細については、「WebLogic Tuxedo Connector のモニタ」を参照してください。

TraceLevel は WebLogic Server プロパティです。以下の例のように、`SAMPLES_HOME\server\config\examples\startExamplesServer.cmd` ファイル内の `JAVA_OPTIONS` 変数を更新します。

```
JAVA_OPTIONS=-Dweblogic.wtc.TraceLevel=100000
```

ここで、100,000 は WebLogic Tuxedo Connector の最大追跡レベルを指定しています。

simpapp サンプルのビルド

以下の手順に従って、simpapp サンプルをビルドします。

1. WebLogic examplesServer を起動します。
2. 新しいシェル ウィンドウを開き、
SAMPLES_HOME\server\src\examples\wtc\atmi\simpapp ディレクトリに移動します。
3. SAMPLES_HOME\server\config\examples\setExamplesEnv.cmd ファイルを使って、環境変数を設定します。
4. ant を使って、wtc_toupper.jar ファイルを作成します。それには、「ant」というコマンドを入力します。
5. SAMPLES_HOME\server\src\examples\wtc\atmi\simpserve ディレクトリに移動します。
6. wtc_tolower.jar ファイルを作成します。それには、「ant」というコマンドを入力します。
7. [デプロイメント | EJB] をクリックし、wtc_tolower.jar と wtc_toupper.jar がデプロイされていることを確かめます。

WTCTServer MBean の作成

以下の手順に従い、WebLogic Server Console を使って WTCTServer MBean を作成しコンフィグレーションします。

1. [サービス] ノードをクリックします。
2. [WebLogic Tuxedo Connector] ノードを右クリックします。
3. [新しい WTCTServer のコンフィグレーション] を選択します。
4. [名前] フィールドに WTCTServer の名前を入力します。たとえば、「mySimpapp」などと入力します。
5. [作成] をクリックします。

ローカル Tuxedo ドメインの作成

注意: ローカル Tuxedo ドメインのネットワーク アドレスをコンフィグレーションする場合、使用するポート番号は、他のプロセスに割り当てられたポート番号とは異なる必要があります。たとえば、**WebLogic Server** のリスン ポートが //mymachine:7001 に割り当てられている場合、ネットワーク アドレスを //mymachine:7001 に設定すると無効になります。

以下の手順に従って、ローカル Tuxedo ドメインをコンフィグレーションします。

1. [ローカル WLS ドメイン] を右クリックします。
2. [新しい Local WLS Domain のコンフィグレーション] を選択します。
3. [一般] タブで、以下のフィールドに値を入力します。
 - [アクセス ポイント]: **TDOM2**
 - [アクセス ポイント ID]: **TDOM2**
 - [ネットワーク アドレス]: <ローカル Tuxedo ドメインのネットワーク アドレスおよびポート> 例: //123.123.123.123:5678
4. [作成] をクリックします。
5. Tuxedo 6.5 ドメインに接続する場合には、以下のようになります。
 - a. [接続] タブをクリックします。
 - b. [相互運用] フィールドを **[yes]** に設定します。
 - c. [適用] をクリックします。

リモート Tuxedo ドメインの作成

以下の手順に従って、リモート Tuxedo ドメインをコンフィグレーションします。

1. [リモート Tuxedo ドメイン] を右クリックします。
2. [新しい Remote Tuxedo Domain のコンフィグレーション] を選択します。

3. [一般] タブで、以下のフィールドに値を入力します。
 - [アクセス ポイント]: **TDOM1**
 - [アクセス ポイント ID]: **TDOM1**
 - [ローカル アクセス ポイント]: **TDOM2**
 - [リスン アドレス]: <リモート Tuxedo ドメインのネットワーク アドレスおよびポート > 例: //123.123.123.123:1234
4. [作成] をクリックします。

エクスポートされたサービスの作成

以下の手順に従って、エクスポートされたサービスをコンフィグレーションします。

1. [エクスポートされたサービス] を右クリックします。
2. [新しい Exported Service のコンフィグレーション] を選択します。
3. [一般] タブで、以下のフィールドに値を入力します。
 - [リソース名]: **TOLOWER**
 - [ローカル アクセス ポイント]: **TDOM2**
 - [EJB 名]: **tuxedo.services.TOLOWERHome**
4. [作成] をクリックします。

インポートされたサービスの作成

以下の手順に従って、インポートされたサービスをコンフィグレーションします。

1. [インポートされたサービス] を右クリックします。
2. [新しい Imported Service のコンフィグレーション] を選択します。
3. [一般] タブで、以下のフィールドに値を入力します。

[リソース名]: **TOUPPER**

[ローカル アクセス ポイント]: **TDOM2**

[リモート アクセス ポイント リスト]: **TDOM1**

4. [作成] をクリックします。

WTCTServer MBean のデプロイメント

以下の手順に従って、WTCTServer Mbean を examplesServer にデプロイします。

1. **mySimpapp** をクリックします。
2. [対象] をクリックします。
3. **examplesServer** を選択します。
4. 右矢印ボタンをクリックします。
5. [適用] をクリックします。

WebLogic Server ユーザとしての TDOM1 の登録

以下の手順に従って、TDOM1 を WebLogic Server ユーザとして登録します。

1. [セキュリティ] ノードをクリックします。
2. [レルム] をクリックします。
3. デフォルト セキュリティ レルムを選択します。
4. [ユーザ] をクリックします。
5. [新しいユーザのコンフィグレーション] テキスト リンクをクリックします。
6. [Default Authenticator] をクリックします。
7. [一般] タブで、以下を行います。
 - a. [名前] フィールドに TDOM1 を追加します。

- b. パスワードを入力し、その有効性を検証します。
- c. [適用]をクリックします。

Tuxedo のコンフィグレーション

以下の手順に従って、Tuxedo ドメインをコンフィグレーションします。

1. PATH 環境変数には、C コンパイラのパスが含まれている必要があります。set PATH を使用してそのことを調べ、必要ならそのパスを追加します。
2. インストールされている Tuxedo 環境から simpapp サンプルをコピーし、Tuxedo simpapp 作業ディレクトリを作成します。
3. Tuxedo simpapp 作業ディレクトリに移動します。
4. TUXDIR にある setEnv.cmd を使って、環境変数を設定します。以下のパラメータを更新します。

TUXDIR - TUXEDO ソフトウェアのベースディレクトリ
APPDIR - サンプルプログラムのベースディレクトリ

5. 以下のコマンドで、クライアントをビルドします。

```
buildclient -o simpcl -f simpcl.c  
buildserver -o simpserv -f simpserv.c -s TOUPPER
```

6. SAMPLES_HOME\src\examples\wtc\atmi\simpapp ディレクトリ内の ubbdomain ファイルと domlconfig ファイルを Tuxedo simpapp ディレクトリにコピーします。
7. SAMPLES_HOME\src\examples\wtc\atmi\simpserv ディレクトリ内の tolower.c ファイルを Tuxedo simpapp ディレクトリにコピーします。
8. Tuxedo 環境の ubbdomain を修正します。これには、APPDIR、TUXCONFIG、および TUXDIR のパス名の設定と、マシン名の設定が必要になります。<…>の箇所をすべて、実際の環境についての情報に置き換えます。

例：

```
APPDIR="\home\me\simpapp"  
TUXCONFIG="\home\me\simpapp\tuxconfig"  
TUXDIR="\usr\tuxedo"
```

9. 「tmloadcf -y ubbdomain」 というコマンドで、ubbdomain ファイルをロードします。
10. Tuxedo 環境の domlconfig を修正します。ログ デバイスの作成と、ネットワーク アドレスの更新が必要になります。

例：

```
DMTLOGDEV="d:\my_apps\tlog"  
AUDITLOG="d:\my_apps\aud"  
DMTLOGNAME="DMTLOG_TDOM1"  
TDOM1 NWADDR="//TuxedoMachine:1234"  
TDOM2 NWADDR="//WTCMachine:5678"
```

11. 以下のコマンドで、domlconfig ファイルをロードします。

```
set BDMCONFIG=d:\mydomain\simpapp\bdmconfig  
dmloadcf -y domlconfig
```

12. 以下のコマンドで、tolower クライアントをビルドします。

```
buildclient -v -f tolower.c -o tolower
```

13. 以下のコマンドで、Tuxedo ドメインを起動します。

```
tmbboot -y
```

14. tmadmin psc コマンドを使って、すべてのプロセスが起動済みかどうか確認します。以下のドメイン プロセスが起動されているはずです。

- DMADM、GWADM、および GWTDOMAIN
- simpserv サーバから提供される TOUPPER サービス
- GWTDOMAIN サーバから提供される TOLOWER サービス

サンプルの実行

各クライアントを実行して、Tuxedo と WebLogic Server との相互運用性を実際に示します。

WebLogic Server から Tuxedo への相互運用性

SAMPLES_HOME\server\src\examples\wtc\atmi\simpapp ディレクトリ内の WebLogic Server クライアントを起動して、TOUPPER EJB を呼び出し Tuxedo TOUPPER サービスに接続します。以下のコマンドを使用します。

```
run.cmd allcaps
```

Tuxedo サービスから WebLogic Server アプリケーションに以下の応答が返されます。

```
Returned string is: ALLCAPS
```

Tuxedo から WebLogic Server への相互運用性

Tuxedo simpapp ディレクトリ内の tolower クライアントを実行して、Tolower EJB を呼び出し、その結果をクライアントに返します。以下のコマンドを使用します。

```
tolower ALLSMALL
```

WebLogic Server サービスから Tuxedo クライアントに以下の応答が返されます。

```
Returned string is: allsmall
```

